

～ 地域医療支援病院としての役割を意識して地域医療の連携を深める ～



さいたま市民医療センターだより

ご挨拶

日頃、さいたま市民医療センターをご支援いただき、ありがとうございます。

記録的な猛暑も9月下旬になってやっと終わりが見えてきました。新型コロナウイルスが5類感染症となり、with コロナそしてこの夏の異常な暑さで、さすがの日本人もマスクをつける機会が減っているようです。人の往来もコロナ禍前に戻りつつありますが、当院では数十名のコロナ患者さんの入院を現在でも受け入れております。入院時すべての患者さんの抗原検査も継続しております。



副院長 塩谷 猛

5類になったといえどもその感染力は変わりませんし、重症化することは少ないといっても病院内では高齢者を始め合併症をお持ちの患者さんが重篤化する恐れやクラスター発生の危険をはらんでいます。この冬はインフルエンザとの同時流行も懸念されます。とはいえ患者さん、御家族のお気持ちを鑑み5月からは面会を制限を設けながらですが再開致しました。

本号の部署紹介は診療支援部の3部署です。この部は当院の各部署でも特にご紹介頂く先生方や患者さんと密接に関わり、院内の多職種職員との連携も多いところです。そのためフットワークの軽さ、チームワークの良さが求められます。

当院はよく診療科間の垣根が低いとお褒めの言葉を頂きますが、診療支援部をはじめとする職員の支えがあつてのものと感謝しております。

8月からは近年増加する高齢者大腿骨近位部骨折患者に対して、より安全・迅速に手術治療ができるよう院内の体制が整いました。高齢者の大腿骨骨折患者の手術治療が早いとその予後が良いとされております。具体的な体制として整形外科を始めとした各診療科のみならず看護、リハビリ、放射線、検査、薬剤、栄養、診療支援部等多職種が連携したチーム医療を行います。術前評価は整形外科医師とともに内科医師が迅速に評価し骨折後48時間以内の手術を目指します。最近基礎疾患を多く持たれる高齢者も多くその評価、治療はもはや単一科でやりきれものではありません。当院は総合内科をベースに専門科の横の繋がりがしっかりしているため、ここはまさに本領発揮であります。術後も多職種による適切な疼痛、栄養など周術期管理とケア、早期離床と二次性骨折予防を行っております。

教育に関してですが本年度より初期研修医は1学年6名から8名に増員されました。8月には来年度採用する初期研修医の面接を行いました。今回、定員8名に対して何とその10倍の88名の応募があり、面接は大変でしたがうれしさ100倍でした。これも会員の先生方、市民の皆様のご評価の賜物だと思っております。

10月からは耳鼻科の常勤医が復活して入院、手術体制が再開されます。さらに乳腺外科では常勤の山田太郎科長と共に女性非常勤医師が毎週月曜日外来、手術を開始します。ご紹介いただく先生方や患者さん、御家族の皆様に“気持ちの良い病院”と感じてもらえるよう全職員取り組んで参ります。

目次:

塩谷猛副院長挨拶	1
診療支援部紹介	2-3
新入職医師紹介	4
私たちのチーム メイト	4

社会医療法人
さいたま市民医療センター

〒331-0054
さいたま市西区島根299-1
TEL 048(626)0011
FAX 048(799)5146
Web: <https://www.scmc.or.jp/>

今回は診療支援部を紹介します。

患者支援センター・地域医療連携室・診療業務サポート室の 3部署から構成する組織で2019年度に新設しました。



診療支援部 患者支援センター

患者支援センターは外来、入院前、入院後、退院後の患者さんの生活を支え、地域で安心して生活できるよう支援しています。看護師、医療ソーシャルワーカー（MSW）で構成され、医療的、社会的側面から連携して業務を行っています。今回は患者支援センター業務内容について紹介いたします。

《患者支援（看護師）》

患者さんや家族からの疾患に対する医学的な質問や生活上の不安についての相談を、電話と窓口で対応しています。問題の解決を行い必要に応じて助言、情報提供を行い相談内容によっては多職種や医療安全担当へつなぎ、支援の継続を依頼しています。

また、窓口では受診希望の患者さんの対応やトリアージを行っています。

《入院支援（看護師）》

予定入院の患者さんが安心して入院生活を送り、住み慣れた地域に退院、療養できるよう入院前から介入を行っています。ADLや介護状況、家族背景などを聴取し、早期の介入が必要な患者さんには多職種と情報を共有しています。薬剤師も面談に加わり、休薬指導など専門的な介入を行っています。また検査や手術のオリエンテーションを行い、患者さんと家族が抱える不安や質問を傾聴し、安心して入院日を迎えられるよう支援しています。



《退院支援・医療相談（看護師・MSW）》

退院調整看護師、医療ソーシャルワーカーが入院している患者さんと家族が納得して退院し、その後安心して生活が再開、継続できるように支援しています。入院中の患者さんだけでなく外来や院外の患者さんへの相談も対応しています。

退院調整看護師は在宅介護や在宅看取り、訪問診療や訪問看護等在宅サービスを中心に行っています。MSWは自宅以外の療養先への退院支援、経済相談や仕事と治療の両立支援、虐待、社会資源調整、がん相談等に対応し、地域活動なども行っています。

《最後に》

患者支援センターは院内のみならず、地域の先生方や事業所、行政の方などと幅広く連携させていただき運営できています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

文責：患者支援センター課長補佐 河村 愛子



診療支援部 地域医療連携室



《地域医療連携室 特徴》

事務員8名で構成されています。同部の「患者支援センター」と連携し近隣医療機関からの電話や問い合わせに対して最初の対応している「病院の入り口」になります。

紹介していただく先生方に、なるべく待ち時間を少なく且つスムーズに対応ができるよう心がけております。

《地域医療連携室 主な業務》

電話対応 ☎

医療機関専用番号：048-799-5113

予約センター（患者用）：048-799-5151

先生方からのご紹介に基づく診療予約の受付、変更業務のほか、高額医療機器の共同利用の受付や依頼検査の予約受付業務を行っています。

《当センターからの情報発信、お知らせ》

外来担当表の最新版など、随時お知らせしております。8月分より外来担当表裏面に「待機日数目安」を掲載しました。患者さんが予約する場合の目安にして頂けます。今まで通り、緊急の場合はすぐに連携室へご連絡ください。できる限りの対応を致します。

《営業活動》

患者さんをこれからも安心してご紹介して頂けるよう、地域の先生方に訪問させていただき、ご要望やお困りごとを伺えればと思います。

《病診連携ケーススタディ》

当センターでは、地域医療機関の先生方より紹介された症例を中心に各診療科から毎月(8月・12月・1月を除く)第2月曜日に「病診連携 ケーススタディ」と称し、さいたま市4医師会医師会員の先生方をお招きして症例勉強会を開催しています。コロナ禍により現在、WEB開催となっております。

《地域医療連携室 今後の目標》

- ・地域医療機関の先生方からのご紹介件数の増加
- ・開放型病床のご案内や共同診療の件数の増加
- ・医師同行の訪問や、広報活動の本格再開
- ・地域の医療従事者等に対する勉強会・講演会等の継続
- ・紹介元の医療機関に対する診察結果、検査報告の充実
→返書するまでの日程短縮のための方策を検討して参ります。
「紹介した後のことを知りたい」「返書が届かない」などありましたら、ご連絡ください。早々に対応致します。
- ・地域住民向けの健康教室などの支援
→「市民公開講座」「膝・股関節の健康教室」「糖尿病教室」「ハートの会」の運営や支援。ご興味のありそうな患者様がいらっしゃいましたら是非、ご連絡ください。



《最後に》

現在のスタッフです。
当センターへの患者さんのご紹介をスタッフ一同、お待ちしております。

文責：地域医療連携室係長 井畔 心平



診療支援部 診療業務サポート室

《医師事務作業補助者について》

医師事務作業補助者は医師の事務作業負担軽減を目的に誕生した業種です。医師の指示のもと医師が行う業務のうち事務的な業務をサポートし、医師が本来の業務に専念できる環境を作り出すことを目的として導入されています。

《業務内容》



- ・各種診断書等の作成補助
- ・外来診療録の入力補助
- ・各種検査オーダー等の入力補助
- ・検査・処置指示の連絡補助
- ・入院サマリー作成補助
- ・紹介状返書、診療情報提供書作成補助
- ・入退院診療計画書記載
- ・他部署・外部からの問い合わせ対応
- ・カンファレンス準備、記録の記載
- ・各種臨床、治験等データに関する登録業務
- ・その他配属診療科特有の補助業務



当院では2010年1月より診療部の所属にて医師事務作業補助者2名が院内に導入されました。その後、診療情報管理室の所属を経て、2019年4月に新設された「診療支援部」の中に「診療業務サポート室」が配置され、現在に至ります。

今年度よりメンバーが増えて10名となり、医師や多職種患者さんとの橋渡しのような存在として業務に携わっています。

担当科や担当医師により業務内容は異なり多岐に渡っているため、医療用語や病名や症状に関する内容を理解することへの難しさがあります。必要な知識を幅広く習得できるようにし、各々が自己研鑽に努めています。日頃から多職種とコミュニケーションをとることで、医師の要望に応え信頼される医師事務作業補助者を目指し、皆で協力し合って取り組んでいます。

私たちは患者さんを直接治療することはできませんが、医師の診療業務をサポートすることにより、医師が患者さんと向き合える時間が増えることで治療に専念してもらえればと思います。患者さんの病院に対する満足度の向上に貢献できるよう頑張っています。



文責：診療業務サポート室係長 金井 友紀



新入職医師紹介



耳鼻咽喉科 民井 智



泌尿器科 郷津 洲



消化器内科 勝部 聡太



内科 石川 拓斗



私たちのチームメイト



株式会社メディカル・プラネット

第4回は『株式会社メディカル・プラネット』さんです。総合受付や外来受付、会計窓口、医事業務など幅広く医事業務を行っていただき、病院運営になくてはならない存在です。

私たちメディカル・プラネットは、さいたま市民医療センターで総合受付、各科外来受付、入退院受付、健診受付、時間外受付の医事課まわり全般の業務、病棟でのクラーク業務に携わっております。

月に一度、リーダーミーティングを実施し、起こった出来事や現場にて感じたことに対して意見を出し合い、より良い仕事ができるようスタッフ一同情報を共有し、日々の業務に励んでおります。

近年のコロナ禍によって常にマスクをしての業務となりましたが、マスクしているときでも笑顔が伝わる患者様対応を心がけており、笑顔と親切の気持ちを常に忘れずに患者様へ接するよう心がけています。患者様からの「ありがとう」の言葉は本当にうれしく、私たちの糧であり支えでもあります。

弊社は明治5年創業のワタキューグループの一員として、医療系人材のワンストップサービスを提供しております。医療関連業界との架け橋となること、それが私たちの役割であると考え、皆様の笑顔とともに歩んでいくことができる様、これからも感謝の気持ちと謙虚な姿勢で取り組んでまいります。

メディカル・プラネット

